



こんにちは

# 日本共産党 坂本みえこ です

2025年  
2月号

日本共産党  
世田谷区議会議員

坂本みえこ事務所 ● 世田谷区太子堂4-5-2 TEL 03-3419-7721 FAX 03-3419-7673

## 2025年度予算

### どうなる？世田谷区政

#### 『学習する都市』 推進予算



2025年度の世田谷区の予算案が提案されました。2月の後半から3月に行われる世田谷区議会定例会と、それに続く予算特別委員会で論議されることとなります。

「学習する都市」推進予算、と名付けられた予算案。区民が学び続ける環境の整備、区民の参加と協働を進めていこうというものです。

これまでの区民の要求が実った施策のいくつかを紹介します。

#### 払いたくても払えない 債権管理重点プラン

これまでの区の債権管理は、住民税や国保料などの収納率の向上や収入未済額の縮減に



主眼がおかれてきました。

今後は「納付したくても納付できない」といった納付義務者に寄り添い、納税課、保険料収納課と生活困窮者等の支援を行う福祉所管課が連携し、情報共有を行うとともに、生活再建に向けた支援につなげるといった仕組みになります。

必要に応じてケース会議や勉強会を実施し、丁寧な対応ができるようになります。

#### 補聴器購入費 助成対象広がる



中等度難聴者のための補聴器購入費助成事業の対象者が拡大されます。

令和6年4月から12月までに区に問い合わせのあった助成希望者（約650人）のうち、およそ4割（約270人）が課税世帯のため対象外。そのうち130人は本人非課税でした。

これを受けて、住民税非課税世帯か



ら、住民税非課税の者へと対象が広がります。

配偶者は課税されているが、自分は非課税の場合や、子どもと同居で世帯としては課税されているが、自分は非課税、といった方が新たに対象となります。

さらに助成を受けてから5年以上経過して、補聴器を買い替えた場合にも再交付されることになりました。

他の自

治体では、住民税課税の方に、も対象を広げているところもあり、さらに拡充を求め、声をあげていきましょう。

要件	年齢区分	拡充後	現行
所得要件	65歳以上	住民税が非課税である者	住民税が非課税世帯に属する者
	65歳未満		
	学生（特例）	住民税所得割額が46万円未満の者	住民税所得割額が46万円未満の世帯
再交付要件※	65歳以上	本事業により助成を受けてから5年以上経過した者	1人1回限り

※65歳未満の方については現行も5年経過後の再交付要件有



## せたがや未来の平和館（平和資料館）開館10周年記念事業

戦後80年、世田谷区平和都市宣言から40年、せたがや未来の平和館開館から10周年を迎える節目の年。議会でも平和のとりくみを旺盛に繰り広げることが求めてきました。

世田谷区は、区民の方々へあらためて平和について考える機会を創り、幅広い年代に向けて、戦争の悲惨さや恒久平和の大切さを発信するため、各種事業を実施します。

- (1) 10周年記念誌発行
- (2) 常設展示リニューアル
- (3) 公園内サインの見直しと新設
- (4) 記念シンポジウムの開催
- (5) 演劇「あの夏の絵」の上演
- (6) スタンプラリーの実施
- (7) 周知・啓発

「あの夏の絵」は、広島県立基町高校の「原爆の絵」を描く取組みをモデルとした演劇です。「被爆証言を聞いて絵に描く」取組みに、迷いながら参加した美術部員3名の高校生を中心に、互いによつかり合いながら友情を育む姿を描くとともに、葛藤しながらも描くことに真剣に向き合い、非被爆者（非体験者）にとっての〈原爆という経験〉の意味を描いた演劇を上演します。

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度（平成19年度）から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

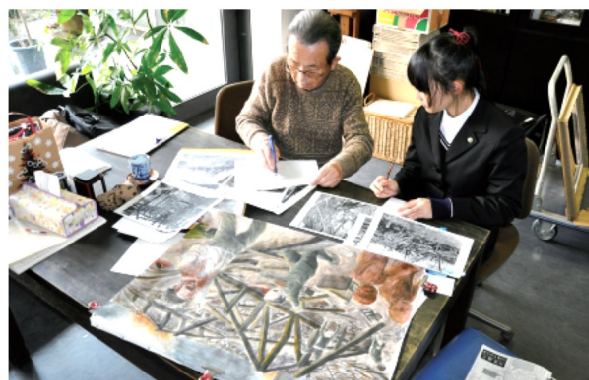
何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

制作方法

（広島平和記念資料館ホームページより）



1 証言者の被爆体験を詳細に聴き取る



2 証言者が描くイメージ図や、わずかに残る写真資料をたよりに、構図を練る



3 色を重ねながら、光景を忠実に再現していく



4 1年の制作期間中、何度も証言者が絵を確認し、直しながら完成を目指す